

平山素子主演「黒と朱」完成記念上映

+

トークセッション「黒塚」

2014 .11.29 17:00-19:00

ポレポレいわき 定員 45

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

協力：二本松市、浪江町、福島大学、NPO 法人 Wunder Ground

平成 26 年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2014 「黒塚」発信プロジェクト



# トークセッション「黒塚」 平山素子主演「黒と朱」完成記念上映

## 映像作品「黒と朱」初公開上映 【17：00～17：30】

安達ヶ原の鬼婆伝説をテーマにした身体表現により、東北への眼差し、中央と地方の関係性から東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故後の福島を問かける「黒塚」発信プロジェクト。

その取り組みの一つとなる初の映像作品「黒と朱」が制作されました。撮影地は、鬼婆伝説ゆかりの地とされる二本松市観世寺、福島県沿岸部の津波被災地（南相馬市・浪江町）等。

主演は、日本を代表するダンサーの平山素子氏。企画立案・美術は、美術家・福島大学教授の渡邊晃一氏。監督は、南相馬市出身の高明氏。

福島への、東北への思いと問いが凝縮し、時空を超えた黒塚の世界。その最初の上映をぜひ目撃してください。

## トークセッション「黒塚」【17：40～19：00】

映像作品「黒と朱」初上映にあわせて、主演の平山素子氏、企画立案・美術の渡邊晃一氏、監督の高明氏をお招きしてトークセッションを行います。それぞれが制作に込めた思いを、モデレーターの赤坂憲雄がお聞きします。

出演

平山素子（映像作品「黒と朱」主演）

渡邊晃一（映像作品「黒と朱」企画立案・美術）

高明（映像作品「黒と朱」監督）

モデレーター

赤坂憲雄（はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会委員長）

# 2014.11.29 Sat 17:00-19:00 open16:30

## 会場：ポレポレいわき Screen5 【いわき市平字白銀町 1-15】

※お車でお越しの方は近隣の有料駐車場をご利用ください。

定員：45 名（先着順）

入場料：無料



## 平山素子 HIRAYAMA, Motoko

ダンサー、振付家。筑波大学准教授。

1999 年、世界バレエ&モダンダンスコンクールにて金メダルとニジンスキー賞をダブル受賞。2005 年より新国立劇場で多くの委託振付作品を手がけ、芸術選奨文部科学大臣新人賞をはじめ受賞多数。現在は、様々なプロジェクトに携わり、身体の輝きという舞踊の原初性と 21 世紀という先端性を両立させる試みを続けている。

## 高明 KOMEI

映画監督。

1999 年、V シネマ『鯨道 9』で監督デビュー。2008 年、『工業哀歌バレーボーイズ』で初の劇場公開作品を手掛けた。監督作品に、2011 年『オーディション』、2013 年『九丁堀にゃんとも事件簿』など。コメディ、青春群像など多岐に渡るジャンルで映画制作を続ける。

## 渡邊晃一 WATANABE, Koichi

美術家、福島大学教授、福島大学芸術による地域創造研究所所長。

絵画・現代美術を中心に活動。現代日本美術展、VOCA 展、北海道立近代美術館、福島県立美術館、Chevigny（フランス）、Mouson（ドイツ）などの企画展に参加。福島現代美術ビエンナーレ企画監修。ダンス作品とのコラボレーションに『大野一雄 疾走する肌膚』（川口現代美術館スタジオ）、『平山素子 Life Casting』（新国立劇場）など。平山素子のダンス作品『春の祭典』（新国立劇場）にも美術協力している。

## 赤坂憲雄 AKASAKA, Norio

民俗学者、福島県立博物館長、学習院大学教授。

東北学を提唱し、1999 年に『東北学』を創刊。2007 年発行の『岡本太郎の見た日本』でドゥマゴ文学賞受賞、2008 年同書で芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。2011 年以降は、東北でのフィールドワークに基づき、東日本大震災、原子力発電所事故により東北が直面している問題について講演や著作活動も行っている。著作に『ゴジラとナウシカ海のかなたより訪れしものたち』（イースト・プレス 2014 年）など多数。

### お問合せ先

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会事務局喜多方支局（担当：宮澤、高橋）  
〒966-0073 福島県喜多方市字中町 2878（NPO 法人まちづくり喜多方内）  
Tel: 0241-22-1026  
Fax: 0241-22-5546  
（受付時間 8:00～17:00、土日祝日休業）

### はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災、その後の東京電力福島第一原子力発電所事故により、福島県内には津波・地震による被害に加え放射線汚染被害、さらに、そこに由来するコミュニティの分断、風評被害が発生し、今なお多くの局面で復旧・復興が急がれています。

この状況から一歩でも前進するため、福島県立博物館と福島県下の博物館、文化事業に携わる大学、NPO などの諸団体が連携し文化活動の支援を行うことを目的に、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトを 2012 年にスタートしました。

震災後、数年間が経過し、県内各地域が抱える問題・課題の差異が時間の経過と共に際立つようになり、福島県を地理的に区分する「はま・なか・あいづ」それぞれの地域の問題・課題への丁寧なリサーチと対応が必須となってきています。

2014 年度はそれらの解決につながるアプローチとなることを目的に、9 つのプロジェクトを展開しています。

詳しくはこちら→[hamanakaaiizu.jp](http://hamanakaaiizu.jp)

平成 26 年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業  
はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2014 「黒塚」発信プロジェクト

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会  
協力：二本松市、浪江町、福島大学、NPO 法人 Wunder Ground

